

令和5年度第1回幡多地域アクションプランフォローアップ会議 議事概要

日時：令和5年9月6日（水）14:30～16:45

場所：中村地区建設協同組合会館 3階 大会議室

出席：委員27名中、24名が出席（代理出席5名含む）

議事：（1）産業振興計画関連会議 年間スケジュールについて

（2）幡多地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括について

（3）幡多地域 地域産業クラスタープロジェクト 実行3年半の取り組みの総括について

議事（1）（2）（3）について、県から説明し、意見交換を行った。（主な意見は下記のとおり）
議事については、すべて了承された。

※意見交換概要（以下、意見交換部分は常体で記載）

（1）産業振興計画関連会議年間スケジュールについて

意見交換等、特になし。

（2）幡多地域アクションプラン 実行3年半の取り組みの総括について

（No.29 三原村のどぶろくによる地域活性化）

（田野委員）

コロナ禍や物価上昇等の影響を受けながら、どぶろくづくりに取り組んでいる。高齢化も進む中、次のステージに向けてどぶろく合同会社という組織をつくって一本化し、商品開発に取り組むこととした。甘酒アイスの開発では企業も巻き込み、リスクもある中で国や県の支援を受けながら農家が一つになって取り組み、困難を乗り越えて頑張っている。

幡多郡6市町村での事業ごとの連携がだんだんと薄くなりつつあると感じるが、これからも6市町村が一つになって経済効果を上げていきたいと思っているので、ご協力をお願いします。

（No.39 竜串地域の観光再生構想の推進）

（磯脇委員）

今年の4月29日にオープンした道の駅「めじかの里」の入館者数は、8月末で約5万8,000人、売上高は約5,600万円、このまま推移すると目標を達成できると考えている。鯉節や宗田節関連の商品を取り扱うとともに、当市の宗田節の出汁を味わっていただくカフェを設置しているが、カフェの利用者（レジ通過者）も約6,000人おり、道の駅が宗田節のPRの一翼を担っている。宗田節の販路拡大に向け、道の駅のPRを含めて取り組んでいくので、ご協力をお願いします。

（岩本委員）

県の地域支援企画員が、市職員が行けないところまで回ったり、様々な意見を聞いてきたり、市に相談があった際も一緒に入ったりと、積極的に活動してくれている。第5期の計画に繋がられるよう、引き続き県の協力をお願いします。

(佐田委員)

コロナ禍での取り組みとなったが、評価がS・A・Bとなったものも結構ある。非常に努力しながら頑張っているとお見受けする。

商工会議所としても、地域活性化のために市町村等と連携しながら取り組んでいきたいと考えているので、今後ともよろしく願います。

(細川委員)

外商に取り組んでいるので、外商ばかりに目がいったが、いろいろとお聞きする中で、四万十市の「はれのぼ」の取り組みはすごくいいと思った。現在、大月町には飲食店が少なく観光客に足を止めていただけない状況になってきているので、「はれのぼ」のような施設が大月町にも一つあったらいいと思う。

(No.34 黒潮町の地域産品を中心とした水産加工品等の販売促進)

(松本委員)

順調に伸びているのは、経営者のセンスの良さと努力ではないかと思っている。地元の女性はもちろん、海外の実習生も雇用し、組織経営をしているところに成功があるのではないかと思っている。

(No.31 黒潮町産天日海塩を活用したビジネスの推進、No.32 黒潮町産天日塩の販売拡大及び地域ブランド化の推進)

(松本委員)

黒潮町には佐賀地域を中心に5ヵ所、5つの工房がある。これくらいの範囲に天日塩の製作所が5つもあるのは全国でもまれである。生産が需要に間に合わない状況になっていることから、2つの事業者が施設を拡張した。需要はまだ増えているので、今は「B」評価であるが、今後必ず高評価になっていくと思っている。

(No.37 幡多広域におけるスポーツツーリズムを核とした交流人口の拡大と地域の活性化)

(松本委員)

今年に入ってからサッカー、野球、ゴルフを中心にスポーツ合宿が伸びており、4面あるサッカーグラウンドや1～3月の野球場もほぼフル稼働の状況である。コロナの5類移行もあり、さらに伸びていくのではないかと思っている。

その要因として、スポーツ施設があるということがまず大事なところだと思うが、最大の要因は、窓口であるNPO 砂浜美術館と黒潮町観光ネットワークの対応が素晴らしいことであると考えている。合宿に来るチームの監督やコーチからは、全国にはスポーツ施設がたくさんあり、もっといいところもあるが、スポーツのことをよく理解している若い人がしっかりサポートしてくれるところは、そうはないと言ってくれている。サポートに限らず、ホスト役がプロ並みに素晴らしいところが要因ではないかと思っている。町としても、こうした人づくりをしっかりやっていきたい。

(山下地域産業振興監)

本日ご出席の委員の皆さまから、協力しながら地域の振興、発展に向けて頑張っていこうというご意見をいただいたので、我々も全力でサポートしていきたいと思っている。

各市町村には地域支援企画員がおり、林業、農業、水産の部分では県の関係機関もあるので、こんなことをやってみたいとか、こんなことを考えているという方がいれば、ご相談いただきたい。すぐには支援策等を活用できない場合もあるかもしれないが、アドバイザーの活用や、実現に近づけるための助言など、連携しながらサポートできると思う。将来的に地域アクションプランへと発展させていくことも含め、支援できればと考えているので、引き続きご協力いただきたい。

(長山委員)

連休やゴールデンウィーク、年末年始、春休み、夏休みになると大月町に県外客がたくさん来るが、食事できる場所がないことが一番大きなネックである。アクションプランには、町内で食事できる場所についての具体的な内容はないが、特にたくさんの方が来る道の駅「ふれあいパーク大月」にも食事できる場所がない。

県や町に支援いただきながらチャレンジショップ事業を実施しているが、ここも1年限りで、続けてできる人がおらず、この辺をどうするのか、大月町にとって大きな課題である。

本日、45ある幡多地域のアクションプランのうち約3分の1強ぐらいについての説明を聞いたが、なかなか内容を理解できない部分もあるし、各市町村で取り組んでいる事業に対して、他の市町村からは意見を言いにくい。市町村ごとにもっと具体的に今後の方向性を議論し、協議していくことも必要ではないかと感じるので、幡多地域全体で年に2回ぐらい実施しているこの会自体のやり方も、今後検討してはどうか。

(3) 幡多地域 地域産業クラスタープロジェクト 実行3年半の取り組みの総括について
(宿毛市イチゴ・柑橘成長クラスタープロジェクト)

(長尾委員)

説明のあった今後の方向性については、適正だと思う。クラスタープロジェクトに限らず、地域アクションプラン等についても、随時その内容を見直し、なるべくマンネリ化しないような形のフォローアップ会議であってほしいと思う。

現状報告になるが、今一番困っているのは、若い農業者が自立するときのハウスの確保等が非常に難しい環境にあることである。ハウスの資材費が1.5倍以上となり、相当な初期投資が必要な上、農産物の価格については、ここ数年、それほど市場価格は上がっていない。まさに今、非常に打撃を受けているが、市とJAでは、研修生が卒業後にイチゴ等を作って活躍できるよう、ハウスの確保を協力してやっていきたいと考えている。

今後も、皆さま方からさまざまな角度からのご提案やご支援をいただきたい。

(宿毛・大月養殖ビジネス高度化クラスタープロジェクト、土佐清水メジカ産業クラスタープロジェクト)

(浦尻委員)

宿毛湾は、養殖に適した地域である。今は、マダイが年間で約500万匹、ブリが約200万

匹、マグロが約3万匹の養殖をしている。過去には400軒くらいあったマダイやブリの養殖業者が、今では40軒くらいになったが、生産量は落ちていない。

ブリ類については、東京に向けて加工している。小さな加工場は金額が落ちているところもあるが、他の事業者やすくも湾漁協では、東京の20社のスーパー等で16億円ほど扱っており、A級商品として認められている。それは、宿毛湾の特性として、隣の愛媛県より2度くらい水温が高いため太りも良く、養殖に向いた地形になっているからである。また、今はビタミンやいろいろな魚粉を混ぜた粒状の餌を与えているので、海が汚れていない。魚に直接餌が入るので太りも良く、愛媛県よりは半年以上早く成魚になると思っている。

ただ、地産地消、地産外商と言われている中、宿毛湾のブリが宿毛市民や大月町民の食卓に並ぶことはあまりないのではないかと感じている。他の委員の意見にもあったように、地元で食べるところが少ないし、あまり提供してない。今後、地元で獲れた魚も養殖の魚もPRするのであれば、宿毛市民や大月町民も食べてもらえるような形にしていきたいと思う。

心配なことは雇用面で、人材が不足している。今後、都会に出ていった若者たちが帰ってきて地元で雇用ができる、そんな宿毛湾であってほしいと思っている。

今後、横の連携を密にして、宿毛湾の特産品をいかに県外に売っていくか、地元で食べていただくか等、メディアでの紹介も利用しながら頑張っていきたいし、助言をいただきたいと思う。

(安田委員)

大月町では、柏島一極集中を解消しようとして取り組んできたが、なかなかうまくいっていない。それでも竜ヶ浜キャンプ場が整備され、今年には檜西キャンプ場ができるので、もう少し努力し、年間を通じて大月町や幡多地域に来ていただけるような形にしていきたい。

数人の委員から食の話が出ていたが、観光客が来るシーズンの利益だけでは経営が厳しいという現状や、人材不足といった問題がある。この辺は少しずつクリアしていかないといけない。頭を悩ませるところではあるが、道の駅にはかなりの方が来ているので、飲食面で迷惑を掛けないような形を考えて頑張っていきたいと思う。

(程岡委員)

資料では、メジカの漁獲量が少ないというような記載がされているが、今年は例年でない豊漁である。ただ、この豊漁が今年だけの可能性もある。本日は、漁業指導所もきているが、漁の予測等を一早くやっていただければ、早めに考えも決めていけるのではと感じている。

県には水産試験場があり、漁業指導所も土佐清水市にあるようなので、密に検討していただき、もう少し漁業者を引っ張っていただくように力を発揮していただければありがたいと思う。

(山下地域産業振興監)

地域の食のこと等についてご意見をいただいた。今ここで解決策をとすることはできないと思うが、市町村ごとに地域本部等と話ができないかというご意見も含め、どういうやり方がいいのか検討し、改めて相談させていただきたい。コロナ禍前は、商工会や観光、銀行の方々などと地域の情報交換をさせていただいていたので、それをぜひ再開させていただきたい

い。

(幡多農業振興センター 山崎所長)

委員から、新規就農者のハウスの建設費が非常に高くなっており、取り組みを進める上でネックになってるというお話があった。年々資材代が高騰し、例えばハウスの建設に3,000万円～4,000万円ぐらいの設備投資が必要な状況である。

これを何とか解消する方法として、まず、役場やJAと協力しながら地元で使われてないハウスを探し、貸していただけるか譲っていただけるところのリストアップを進めている。ただ、個人の所有でもあるし、跡継ぎが帰ってくるかもしれないので置いておきたいというお気持ちの方もいるので、地元の方と話しながら協力をお願いしている状況である。

また、野菜等の作付け時期から逆算してハウスを建設するのが一般的だが、どうしても建設時期が集中してしまう。そうなると、作業工賃等が上がってしまうため、建設スケジュールの揺り動かしができないかといった取り組みを、業者の方々とも調整しながら進めている。

各地域で空きハウスの情報等があれば、各市町村役場や県、JAの方等に教えていただけると非常に助かるので、ご協力をお願いします。

(土佐清水漁業指導所 石川所長)

ご意見をいただいたメジカの漁場予測に関しては、去年から早稲田大学が水温・塩分・流向・流速等のデータを参考にし、メジカがどこに集まるのかという好漁場の予測をしてくれている。モニターの漁師さんにどうであったかという確認も行なっているが、少し当たり外れもあるし、好漁場と判定される範囲が非常に広く出てしまうということがあるので、もう少しデータを絞って的確を絞りこんでいく、さらに精度を上げていくということで、今、調整が進んでいる。

(西部家畜保健衛生所 杉村所長)

畜産関係の2つのアクションプランのうち、あしずりキングについては、コロナの影響でうまく軌道に乗せることができず、残念な思いをしている。別の鶏種に変えて農家の方も頑張っており、この産業振興計画でできた食鳥処理場を有効に使わせてもらっている。

四万十牛は、非常に好調に販売を続けている。

(幡多林業事務所 河渕所長)

林業関係のアクションプランとしては、大月町備長炭生産組合の取り組みがあるが、本日は林業全般について成長戦略の取り組みを紹介させていただく。(説明省略)

(地域観光課 中村課長)

県では、「牧野博士の新休日」として博覧会を開催している。幡多地域の市町村においても、草花スポットの整備や牧野博士関連の企画展などを実施していただいております、感謝する。

「らんまん」関係では、10月7～8日に、西南大規模公園でエリアイベントを開催させていただく。イベントでは「らんまん」の出演者による特別トークや、草花の体験等があり、その後、3カ月ほどデジタルスタンプラリーも開催する。幡多地域への誘客と周遊促進に努め

ていきたいと思っているので、引き続き協力をお願いします。

博覧会後の展開についても、現在検討中である。来年度については、長期滞在をテーマに取り組みを進めていこうと思っている。観光客に長期滞在していただくためには、定番の観光地からもう1歩を足を踏み込んでいただき、地元の方との交流や、その地域ならではの体験や食を楽しんでいただくということが必要になってくる。各市町村が対象となるので、ぜひ、その施策も連携して取り組みたいと思っている。

(中平座長)

「らんまん」効果について、仁淀川流域はものすごく盛り上がったようだが、幡多の方は仁淀川流域ほどの盛り上がりはなかったようである。

長期滞在型観光について、幡多には海も山も川も歴史も全てあり、6市町村で連携を取れば何泊でもできるような形ができると思うので、よろしくをお願いします。

(大木委員)

内水面漁業は資源量が限られているので、漁業者が精いっぱい勤勉に仕事をすれば資源量がなくなってしまうという課題があり、資源量と見合う経営が不可欠である。

内水面漁業は、地域の皆さん方の生活圏の中にあり、漁業権を持っているという点では、公益性の高い漁業だと自負している。観光と抱き合わせをしたり、環境保全に積極的に取り組んだり、資源管理も積極的に行っている。増殖の取り組みもしているが、これは地域の皆さん方の全ての産業に対して、ある意味、寄与してるところがあり、地味ではあるが今のスタイルを貫いていきたいし、できれば他の産業を支援していきたいと考えている。地道にでも頑張っていく。

(中平座長)

特に四万十川河口の青のり、青さのりは、ほぼ壊滅状態であることから、今年度より陸上養殖を始めたいという民間事業者がいるので、漁協と連携しながら進めたい。県にもしっかりとバックアップをお願いします。

(篠田委員)

スギ・ヒノキが主の人工林で、10年以上整備されてない山をピックアップし、そこを間伐するのか、皆伐するのか、そのまま放置するのかを含めた計画を市町村の方にお返しする仕事をしている。まだ始まったばかりで、今、山林の調査を各市町村でやっているところである。そのデータが集まり次第、各市町村にお返しして支援を進めていただきたいが、整備を進めていただくためには、どうしても人材が必要である。

県のPR版パンフレットに、各分野の主だった統計が載っているが、林業だけは金額でなく生産量となっている。林業の場合、誰かの所有の山を事業体が50人や100人規模の協定を結んで整備しており、直接事業体にお金が集まるような事業ではないので、産業振興のプランを作りづらいのではないかと思う。

他方では、林業県である高知県が、積極的に他県に先立っているような制度を取り入れているので、そういった恩恵を受けながら事業体が頑張っているということもあろうかと思う。こ

の林業分野の数字でいうと、全体の人数は少ないが、林業就業者は横ばいを維持している。これには林業大学校の経営・運営がすごく重要であり、卒業生が幡多に来ていただけるよう、幡多の魅力について林業だけではなく、プラスした魅力を発信していけたらと思っている。

(以上)